

満洲国演義 9 残夢の骸

年代	時期	主人公	身分	舞台	登場人物	ストーリー	歴史的事項	参照
1944	6月30日	四郎	関東軍特殊情報課第4班囃託少尉	関東軍総司令部一新京神社	堀場哲男 (関東憲兵隊大尉)	<ul style="list-style-type: none"> 四郎が屋敷に向かうとすると堀場哲男がいた 野田知重少将の東條英機暗殺計画が具体化してきている 牛島辰熊が石原莞爾の賛同を得た 三笠宮寛仁親王も関与しているため東京憲兵隊は動けない 海軍でも閣内閣議が進行している 高松宮寛仁親王が絡んでいる いざとなれば暗殺する 四郎に関東軍作戦課の動きを監視して欲しいと依頼 	<ul style="list-style-type: none"> マリアナ沖海戦で帝國海軍機動部隊第3艦隊が壊滅した 日米間レーダーの性能に差があった。空母「大鳳」「翔鶴」と47機の艦載機、400名超のパイロットを失った。 ノルマンディー上陸に成功した連合軍は米国防務省に44カ国が集まり、国際連盟体制の構築を協議した。 文部省は国民学校初等科児童の集団疎開を決定。 	レーダーの性能差による劣勢 陸軍の東條英機暗殺計画 海軍の東條英機暗殺計画
1944	7月8日	三郎	関東軍機動第2連隊第1中隊長少佐	第一中隊長室	樺床正次 (機動第2連隊第1中隊長) 伊奈尚平 (作戦課参謀少佐)	<ul style="list-style-type: none"> 三郎は樺床正次からサイパン陥落の報告を受けた 伊奈尚平が三郎を訪ねる サイパン陥落とインバル作戦の無残な結果について 三郎は東條英機暗殺計画について関与を問いただす 東條英機は講和の道を探る気はない 海軍の動きは噂しか知らない 吉林駅で奉天から牡丹江近くへ向かう開拓民に会った 戦時緊急開拓政策実行方策による 	<ul style="list-style-type: none"> サイパン玉砕の2日前に南雲忠一海軍中将、第43師団長斎藤義次陸軍中将、第31師団参謀長井桁敬治陸軍少将が自決した。守備隊玉砕、8千名の民間人が投身自殺。 7月3日、インバル作戦を正式に中止。佐藤幸徳中将を軍法会議にかけず心神耗弱で軟禁する。 ミートキーナはじきに陥落する。レド公路も完成間近。太平洋ではバラオが狙われ、フィリピンの第14方面軍が孤立する。 松代大本営を検討中。 	サイパン陥落 佐藤幸徳中将の処遇
1944	7月18日	太郎	國務院外交部政務処長	政務処長室	明石春夫 (ダイヤル寮) 谷津是之 (政務処主任) 瀬古勝久 (上海総領事代理)	<ul style="list-style-type: none"> 明石春夫が太郎を訪ねる 次郎の遺書を届けた 太郎は願末を聞き感謝の意を伝える 明石春夫は台湾で編成される第60師団に参加する 谷津是之が太郎に報告 東條英機内閣総辞職 瀬古勝久に電話をする 東條英機は内閣改造のため切羽が迫ったが岸介が内閣大任に裏切られた 4日後に小磯内閣が成立する 瀬古勝久から電話 実質的には小磯内閣 米内光政連立内閣 サイパン陥落で本土爆撃は時間の問題になった 	<ul style="list-style-type: none"> 東條英機は、参謀総長辞任と軍令部総長辞任、一部の閣僚の辞任による内閣改造を企及したが、岸介は辞表提出を拒否したため、総辞職に追い込まれる。首相には個別の大任の罷免権はない。 	東條英機内閣総辞職の内幕 小磯内閣内閣
1944	7月22日	四郎	関東軍特殊情報課第4班囃託少尉	関東軍総司令部一心亭	堀場哲男 (関東憲兵隊大尉)	<ul style="list-style-type: none"> 四郎が電文を読んでいると堀場哲男が現れた 一心亭で食事をす 東條英機暗殺計画の詳細が判明した 海軍は神重徳大佐の連合艦隊参謀への転出で実行日が延期された 直宮が二人絡んでお互いに聞かされる 東京憲兵隊長四方諒二大佐は岸介と重臣を殺すと酒に酔って瀕らしている 堀場哲男は伊奈尚平と間垣徳蔵に何らかのケリをつける 	<ul style="list-style-type: none"> 7月20日、ヒトラー総統暗殺を狙った爆弾テロが行われた。24名参加で4名死亡もヒトラーは軽傷。実行者は予備軍最高司令官連合参謀長クラウス・フォン・シュタウフェンベルク大佐。首謀者たちは処刑、新国家元首になるはずだったベック上級大將は自殺。 	フルクレー作戦 海軍の東條英機暗殺計画2 平家軍
1944	7月29日	三郎	関東軍機動第2連隊第1中隊長少佐	通化駅→通化大賓館→大頂子山	諏訪牧彦 (通化警察公署警佐) 太郎 樋口吉三郎 (樋口宇真館) 項麗鈴 (麗鈴亭)	<ul style="list-style-type: none"> 三郎は通化にきた 次郎の墓を建てるため電車内でミートキーナ攻防戦で脚を失った若者とその叔父に出会う 今のところ大本営に戦争完遂の方針に変化はない 関東軍司令部の通化への移転計画が持ち上がっている 北滿放棄し南滿と朝鮮半島防衛に縮小する 通化大賓館で項麗鈴と樋口吉三郎と再会 四郎と太郎がやって来る 諏訪牧彦と四郎の再会 次郎の遺書を大頂子山の頂上に埋めた 	<ul style="list-style-type: none"> 参謀総長に梅津美治郎大將が転出し、関東軍総司令官は山田乙三に交代。在滿邦人に起こす動き員をかけて75万人を維持しているが、対ソ静謐方針。 サイパン陥落により硫黄島が戦略的に重要になった。B-29の中継・緊急避難基地として、護衛戦闘機の発進基地として。大本営は第109師団長栗林忠道中将を硫黄島防衛の指揮官とし、2万1千名の兵力を投入する。 5月中旬、ミートキーナ郊外の飛行場が米軍に奪取された。第33軍作戦参謀辻政信大佐が第56師団水上憲兵少将に敵寇抗戦を命じ、第5飛行師団は多くの戦闘機と爆撃機を失った。 	護号作戦 硫黄島防衛
1944	8月6日	太郎	國務院外交部政務処長	政務処長室	谷津是之 (政務処主任) 間垣徳蔵 (奉天特務機関中佐)	<ul style="list-style-type: none"> 谷津是之が太郎に護号作戦の資料を渡す 相変わらず具体性がない 間垣徳蔵が太郎を訪問 次郎の死について東條英機暗殺計画について 東條英機は命拾いをした 護号作戦について 陸海軍の航空戦力集中は上手く行かない 妥協の産物に過ぎない 南方竹尾情報局総隊長による爆撃(キョウリン)工作が動き出している 内閣で小磯内閣首相と東久遠宮裕彦王防衛総司令官が支援し米内光政海相と重光葵外相が反対している スターリンに日米講和の斡旋させる動きもある 伊奈尚平少佐は南方軍作戦課参謀に転出した 間垣徳蔵はそこから情報を得ている 	<ul style="list-style-type: none"> 学童集団疎開開始。 大本営政府連絡会議を最高戦争指導会議と改称した。 ドイツでは700名以上処刑。西部戦線総司令官フォン・クルーゲ元帥、北アフリカ戦線の英雄ロンメル元帥が自決を強要される。 8月1日ワルシャワ蜂起。ソ連軍の支援なく地下組織軍1万5千名、市民15万人死亡。連立物の8割が破壊され窮乏化した。 軍令部総長は及川古志郎大將。海軍に珍しい三国同盟推進派。 水上源蔵少将は自決した。 アウン・サンは反ファシスト人民自由連盟バサバラの議長に就任。連合国側に返還の準備を始めた。 	フルクレー作戦余波 ワルシャワ蜂起 護号作戦 現代の戦争 ビルマの苦境
1944	9月初旬	四郎	関東軍特殊情報課第4班囃託少尉	新京ヤマトホテル→関東軍司令部→国際美術骨董品販売商會	落合章介 (第1方面軍参謀中佐) 川路憲久 (関東憲兵隊長) 若見仁良 (関東憲兵隊長)	<ul style="list-style-type: none"> 四郎は落合章介と新京ヤマトホテルで食事を 山下奉文の前線復帰について 第14方面軍司令部としてフィリピン防衛にあたる 密偵工作について 極東ソ連軍への静謐方針と和平工作の共通し 落合章介と堀場哲男の連絡が途絶している 川路憲久が堀場哲男と同行を求めると国際美術骨董品販売商會で足音を折られた堀場哲男の死体があり四郎が犯人の嫌疑をかけられた 	<ul style="list-style-type: none"> 南支から出撃したB-29は九州、中国、四国を爆撃 沖縄からの疎開船対馬丸が米潜水艦により撃沈。疎開学童700名含む1500名が犠牲になる。 学生動労令、女子挺身動労令の公布。 バリ市民の蜂起と連合軍入城。 ソ連赤軍がフランスに入城。 フィンランドが対独断交を宣言。 ドイツ、報復兵器VIによるロンドン爆撃を強化。 	極東ソ連軍の動きと和平工作
1944		三郎	関東軍作戦課少佐	関東軍総司令部→天龍庵屋伝八	樺床正次 (機動第2連隊第1中隊長) 浦添裕樹 (作戦課中佐)	<ul style="list-style-type: none"> 三郎は関東軍作戦課に転属となった 最高戦争指導会議の方針が定まらず立止ちを覚える ビルマ方面の苦境について イラワリ合戦に賭ける ビルマ方面軍第33軍司令部の辻政信参謀への懸念 最高戦争指導会議はフィリピンでの迎撃作戦を捷一号作戦と名付けた 三郎は樺床正次も関東軍作戦課に転任させるように浦添裕樹に要請する 	<ul style="list-style-type: none"> ビルマ方面軍司令部は木村兵太郎中将に交代した。牟田口廉也中将と河辺正三中将は参謀本部附となった。 インバル作戦の被害。戦死者2万2千、戦病死者8千4百、戦傷者3万。 捷一号作戦のために第14軍は第14方面軍に格上げされた。 	
1944	10月22日	四郎	関東軍特殊情報課第4班囃託少尉	関東軍総司令部→小料理屋小波	三郎 瀧尾浩巳 (満映制作部企画課長)	<ul style="list-style-type: none"> 関東軍総司令部は台湾沖航空戦の戦果に徐々に沸き返っている 四郎は三郎と小波で昼食 瀧尾浩巳が声をかけてきた 夜襲風の完成打上げをしている 三郎と話す 台湾沖航空戦勝利について 堀場哲男被害に関する取り調べについて 奈津と子どもたちについて 桂子について 	<ul style="list-style-type: none"> 8月にテニアン島、グアム島も守備隊が玉砕した。 	台湾沖航空戦誤報
1944	10月23日	太郎	國務院外交部政務処長	政務処長室→自宅	瀬古勝久 (上海総領事代理) 香月信彦 (同盟通信社記者)	<ul style="list-style-type: none"> 太郎は捷一号作戦の大本営陸軍部命令を読む 瀬古勝久から電話 上海で米軍大艦隊がフィリピンに向かって航行中 台湾沖航空戦の戦果報告と矛盾する 山下奉文と寺内寿一の間に行き違いがある ルソン島防衛とレイテ決戦の指示 自宅に香月信彦が訪れていた 香月信彦は瀬古勝久の話を聞いて台湾沖航空戦の誤報を確信した 堀床三郎からの緊急電を大本営陸軍部作戦課作戦補助の瀧島龍三少佐が握り潰した 理由は保身のため 連合艦隊司令部の顔に泥を塗り捷一号作戦の練り直しが必要になるから 内閣は戦争経路線なのか和平路線なのかもわがな 	<ul style="list-style-type: none"> 大本営陸軍部情報参謀堀床三少佐はミッドウェー海戦後にアメリカの製薬会社の株番が上ったことから米軍が大兵力を南洋に送ることを見抜いた。 堀床三少佐が第14方面軍情報参謀に転属することになりマニラに向かう途中に台湾沖航空戦の軍容を調査し戦果報告がデータラメであったことを突き止めた。 	瀧島龍三
1944	10月下旬	四郎	関東軍特殊情報課第4班囃託少尉	上海・虹橋機場→新重大酒店	松浦忠之 (支那派遣軍上海陸軍部大尉)	<ul style="list-style-type: none"> 四郎は捷一号作戦に関する情報を得るためにマニラ行きを命じられた 松浦忠之と上海で落ち合い香港→サイゴン→マニラと移動する 松浦忠之と神風特攻について話す 美談に仕立て上げ新聞に書かせる海軍のやり方に怒り 関行男大尉は反対している 大西瀧治郎は特攻の発明者ではない 2つの自発の特攻の事例がある 目的のために手段を選ばない政治的人物 最高戦争指導会議からの連絡 ユッフェケリによる偽軍票のせいで軍票が使えなくなり山下奉文司令官は丸儲金貨を送るよう要請した 	<ul style="list-style-type: none"> ハルゼー提督率いる第3艦隊とそれを支援する第7艦隊に対し、連合艦隊の第2艦隊と第3艦隊が激突。第3艦隊がレイテ沖に空母群を誘い出しに成功するも第2艦隊司令官栗田健男中将は大和とともに反転し遭った。戦艦武蔵、旗艦愛宕、重巡洋艦摩耶撃沈。 第一航空艦隊司令官大西瀧治郎中将が組織した神風特別攻撃隊・敷島隊の指揮官関行男大尉が護衛空母セントローに突撃して轟沈させた。 特攻は零戦ではなく桜花という有人ロケットで試されるはずだった。 	レイテ沖海戦 最初の神風特攻 レイテ島の戦い 最初の特攻 大西瀧治郎の人間性

年代	時期	主人公	身分	舞台	登場人物	ストーリー	歴史的事項	参照
1944	11月上旬	三郎	関東軍作戦課少佐	朝日山頂上→ 勝岡陣地第一 地区要塞→鳥 蛇溝河河畔	落合重介(第1方面 軍参謀中佐)	・三郎は落合重介と朝日山頂上から鳥蛇溝河(う だこうが)向こう岸のソ連軍のトーチカを眺めている ヨーロッパから戦力を移している 講和仲 介の望みはない 日露戦争とシベリア出兵の恨 みは深い ・勝岡陣地には関東軍独立混成第132旅団第一国 境守備隊が地下要塞を築いている 80名の八路 軍兵士苦力と脱走したとの報を受けた ・最高戦争指導会議は誰が決定権を握っている か不明 ・鞍山の麓に隠れていた逃走苦力を発見 半数 が鳥蛇溝河を渡り逃走し日本軍は追撃を停止	・帝国陸軍は韓田教導飛行師団長・今西六郎少 将が万葉隊、浜松教導飛行師団長・川上清志少 将は憲隊を結成し、フィリピンに送った。 ・大本営は関東軍に対して対ソ静態確保と全面 持久戦の提案という矛盾した通達。	最高戦争指導会議の内実 勝岡陣地
1944		四郎	関東軍特殊情報課第4 班囃託少尉	マニラ・マカ ビリの聚落→ フォート・マ ッキンレー兵 營	中村勝信(案内) 伊奈尚平(南方軍作 戦課参謀少佐)	・四郎はフランスコ・ナカムの父中村勝信 に案内してもらい フィリピン人が何を考 えているか知る ・マカビリで虐殺された死体を発見した ・偽造軍票の流通で軍票では誰も物を売らな くっている ・フォート・マッキンレー兵營で伊奈尚平に声 をかけられる 南方軍総司令官はサイゴンへ移 動する ・伊奈尚平は統帥の乱れを嘆く 四郎は堀場哲 男が殺害されたことを伝える ・本部はハルビンに出征 羽生正平とカフェ ・ダンツィヒで落ち合う ・壕壕工作について 緒方竹虎情報局総裁が石 原莞爾と連絡をとっている 壕壕工作反対派は ソ連の仲介による講和に絞るべきと考えている ・瀬島龍三少佐が外交伝書使としてモスクワに 向かったという噂がある ・松代大本営による本土決戦準備と講和仲介工 作という矛盾した行動について	・フィリピンにはガナップ党という反米活動組 織があり、第14方面軍参謀副長の西村敏雄少将 が口説いて反日活動を密告させるマカビリを組 織させた。マカビリとは愛国者党の意味。 ・レイテ島には7個師団と3個旅団、第4航空 軍の7万5千の兵力が投入されている。 ・山下奉文司令官はマニラを無防備都市にして バギオに第14方面軍司令部を移すつもりである が、第4航空軍司令官富永恭次中将と海軍第31 特別根拠地隊司令官岩淵三三少将が反対する。	マカビリとフィリピン情勢
1944	11月17日	太郎	国務院外交部政務処長	ハルビン駅→ モテルン・ホ テール・カン ツィヒ	羽生正平(ハルビン 総領事館参事官)	・三郎は伊奈尚平と小波で食事 伊奈尚平は内 地で大本営陸軍部に南方軍がまとめた分析を報 告する予定 ・全軍特攻化方針について 激突隊が撃沈数と して報告される 兵員を消耗品としてしか考え ない将帥たちに伊奈尚平は腹を立てている ・ビルマ戦線に完全にはインパール作戦の責任 者たちが罪を問われない現状がある ・辻政信の疫病神ぶりや重宝される理由 イラ ワジ会戦について ・間垣徳蔵の逮捕について 牡丹江の第6陸軍 拘禁所に収監されている	・レイテ島での99式双軽爆撃機による万葉隊、 憲隊の特攻はほとんど成果を上げていない。 ・11月7日スターリンはソ連革命記念日に日本 を侵略主義国家と決めつける演説を行った。 ・翌日にルースベルト大統領が4週した。 ・11月10日、汪兆銘死去。南京政府は消滅。 ・松代大本営は11日から工事開始。2個内と延 べ300万人の住民及び朝鮮人動員で構築する。	
1944	12月初旬	三郎	関東軍作戦課少佐	島々深一前家 郷	榎本正次(作戦課曹 長) 野末孝治(満洲国軍 島々深駐屯地大隊長 中尉)	・榎本正次と三郎は満洲国軍島々深駐屯地の1 個小隊とともに島々深の前家郷へ向かっている ・島々深駐屯地で叛乱が勃発した 延安からの 工作で分隊長を説得していた上官に報告され そうになって分隊長を殺し9人が脱走した ・1個小隊で前家郷を取り囲み全員を射殺	・パラオ諸島のアウンガール島守備隊、ペリ リュー島守備隊が全滅。 ・11月24日にはB-29が東京を空襲。	土浦航空隊と特攻訓練
1944	12月7日	四郎	関東軍特殊情報課第4 班囃託少尉	関東軍総司令 部	藤岡政男(特殊情報 課第4班主任少佐) 三郎	・四郎はようやく帰った B-29の70機が奉天 の航空兵器廠を爆撃に來たが被害軽微 満洲国 軍の襲撃特攻隊が追い払った ・三郎から電話 間垣徳蔵が堀場哲男殺害容疑 で捕まった	・新編国民革命軍は雲南省の拉孟と騰越の奪還 に取り掛かる。辻政信参謀は援蒋公路の遮断を 命令。拉孟守備隊は50分の1、騰越守備隊は25 分の1の兵力で全滅した。 ・7月28日鞍山昭和製鋼所をB-29が爆撃。 ・フィリピンでは特攻を繰り返している。人間 魚雷回天の第3機隊作戦、轟空挺部隊と高千穂空 挺部隊による補給なしの斬り込み、富永恭次司 令官指揮の高砂族によるブラウエン飛行場への 抜刀斬り込みなどが行われた。	拉孟・騰越の戦い 八航飛行隊
1945	1月21日	三郎	関東軍作戦課少佐	小料理小波	伊奈尚平(南方軍作 戦課参謀少佐)	・三郎は伊奈尚平と小波で食事 伊奈尚平は内 地で大本営陸軍部に南方軍がまとめた分析を報 告する予定 ・全軍特攻化方針について 激突隊が撃沈数と して報告される 兵員を消耗品としてしか考え ない将帥たちに伊奈尚平は腹を立てている ・ビルマ戦線に完全にはインパール作戦の責任 者たちが罪を問われない現状がある ・辻政信の疫病神ぶりや重宝される理由 イラ ワジ会戦について ・間垣徳蔵の逮捕について 牡丹江の第6陸軍 拘禁所に収監されている	・ドイツ軍はベルギーアルデンヌでバルジの戦 い。 ・山下奉文司令官のマニラ無防備都市構想は放 棄され海軍陸戦隊マニラ海軍防衛隊を編成し市 街戦態勢を構築する。 ・レイテの戦いでは600機が特攻出撃して海の藻 屑となつた。 ・牟田口廣也は予科士官学校長となり、河辺正 三は第15方面軍司令官兼中部軍管区司令官に なった。	マニラ海軍防衛隊 特攻に戦術的效果はない 辻政信の人格的欠陥
1945	1月21日	四郎	関東軍特殊情報課第4 班囃託少尉	関東軍総司令 部→満鉄医院	藤岡政男(特殊情報 課第4班主任少佐) 三郎(第4航空 軍第4飛行師団 曹長)	・前日夜に米軍がルソン島リガエン湾に上陸し た ・藤岡政男が電話を受ける 富永恭次司令官が マニラを捨てて台湾へ逃げた 臺中野郎と吐 き捨てて 四郎に満鉄医院に向かうように指示 する ・左足を失った三郎昇一から特攻の実態が語ら れる 特攻作戦の中止を働きかけてもらいたい と頼むため ・四郎は富永恭次が逃亡したことを教える 三 郎昇一は富永司令官を擁護する	・バルジの戦いでドイツ軍は戦死傷者、捕虜、 行方不明合わせて6万7千人を超える損害を出 した。 ・特攻隊としてレイテ島に送られたのは、八航 隊、一宇隊、靖国隊、鉄心隊、勳皇隊、殉義 隊。 ・特攻機は爆撃機を機体に固着させ、機首に起爆 装置がある。銃座も無縁も取り外してあり、体 当たりする以外に選択肢はない。 ・遺書の書き方には教科書があり、検閲される	特攻の真実
1945	2月	太郎	国務院外交部政務処長	政務処長室	谷津是之(政務処主 任) 河辺慎一(大東亜省 企画調査局長)	・谷津是之が太郎に報告 壕壕工作を今井武夫 次郎津浦軍参謀副長が邪魔している ・一般大衆も大本営発表が虚偽に満ちているこ とを知っている ・太郎は河辺慎一が訪ねる 上海と天津出張の 帰り 壕壕工作が放棄されれば石原莞爾予備役 中将の影響力は完全に消滅する ・富永恭次の脱走について 第10方面軍台 湾軍管区司令官・安藤利吉大将に到着の申告を 拒否された ・マニラの戦局について 脱出ドイツ人から上 海で聞いた ・近衛文磨元首相が和平交渉に入るように上奏 文を提出したとの噂	・ヤルタ会談が2月4日~11日で行われた。 ポロランド問題が争点。ポロランド国民解放委 員会とイギリスの亡命政府のどちらを認める か。 ・ドイツは東プロイセンの領土をすべて失 いポロランドに帰属することになった。 ・台湾は国民党重慶政府に帰属し、朝鮮半島は ソ連と連合国による信託統治。 ・第4航空軍の残存部隊は第14方面軍に吸収さ れた。 ・海軍防衛隊がマニラで市街戦を展開 銃器の 不足により軍刀と竹槍で戦っている。米軍も相 当数の死者を出し、ビュティフル・ダウナ ウを砲撃し互殺の山になっている。	ヤルタ会談 マニラ戦局
1945	2月7日	四郎	関東軍特殊情報課第4 班囃託少尉	関東軍総司令 部	藤岡政男(特殊情報 課第4班主任少佐) 三郎昇一(第4航空 軍第4飛行師団 曹長)	・早朝に四郎が出勤すると関東軍総司令部前が 騒然としている 三郎昇一が泣血上申書を携え 自決した ・泣血上申書は山田乙三関東軍総司令官に宛て て戦車を止めるようにとの内容 藤岡政男は怒 り手紙を折り捨てた 戦病死扱いとした ・内地では治安維持法違反による検挙が頻発し 行われている	・2月26日、マニラでの戦闘が終了。イントラ ムロス要塞の海軍防衛隊は全滅し、岩淵三三少 将は自決した。 ・2月19日、米軍が硫黄島上陸。栗林忠道中将 指揮の小笠原兵団が戦死中。 ・2月13日から15日にかけて、米軍の重爆撃機 延べ1300機によるドレスデン爆撃。街の65%が破 壊され、2万5千人以上の市民が犠牲になっ た。	硫黄島の戦い
1945	3月11日	太郎	国務院外交部政務処長	政務処長室	香月信彦(同盟通信 社記者)	・香月信彦が太郎を訪ねる イラワジ会戦の取 材の帰り 東京大空襲で帰れなくなった ・東京大空襲について 太郎は桂子の入院する 松沢病院が焼けることを願った ・今月末にビルマ国軍から反ファシスト人民自 由連盟バサバサに加わったアウン・サンが抗日 一斉暴起に踏み切る 方面軍司令部に報告した が相手にされず ・太郎に間垣徳蔵への検見許可が出た	・3月10日、東京大空襲で死者8万4千人弱、 被災者100万人、被災家屋26万戸。B-29は270機 以上が襲来。 ・イラワジ会戦ではメイクテラを抑えられ た。奪還を目指している。	東京大空襲
1945	4月初旬	三郎	関東軍作戦課少佐	興安南省・錫 家店→通遼東 店	榎本正次(作戦課曹 長) 尾辻宗明(歩兵第388 連隊大隊長) 落合重介(第1方面 軍参謀中佐)	・三郎と榎本正次は錫家店(せきかてん)で第125師 団歩兵第388連隊の1個中隊の訓練を眺めている 根こそぎ動員で銃すらもとに配備されていない ・対ソを想定した訓練 東京から来た開拓民の 兵士たちが訓練中に事故を起こす ・通遼東店に落合重介がやって来た 朝枝繁春 大本営作戦課少佐と一掃満洲を巡っている ・小野寺信少将の最高機密暗号電文が瀬島龍三 中佐に握りつぶされたという噂 スターリンと ルースベルトのソ連対日参戦密約 ソ連に講和 斡旋してもらった路線を放棄したくないから ・三郎は近衛文磨の上奏文を読む 現実と矛盾 する認識に陥落する気分になる	・ビルマで抗日一斉暴起、硫黄島守備隊玉砕、 沖繩本土上陸開始。 ・関東軍から12個師団25万人が引き抜かれた。	武威小山商店街開拓民 スターリン 近衛上奏文
1945	4月上旬	太郎	国務院外交部政務処長	牡丹江・常磐 ホテル→関東 軍第6陸軍拘 禁所	間垣徳蔵(奉天特務 機関中佐)	・太郎は間垣徳蔵に会いに関東軍第6陸軍拘禁 所にやって来た 満洲国と大日本帝国が壊れる 前に太郎だけに線を示す ・盧溝橋事件で満洲の夢は終わり次郎の死で満 洲は理想のかけらも失った ・間垣は拘禁所で特別待遇を受けている ・堀場哲男を殺した 軍法会議は開かれない ・間垣と敷島兄弟とは長州奇兵隊の同門だった 祖父を同じくする従兄弟 最初は憎んだがやが て手を貸したくなった ・奥山貞夫とは直接の血の繋がりは無い 四郎 が殺したことを示唆 ・栗林忠道中将の奮闘について 戦闘で死んだ ただ一人の司令官 ・小磯國昭内閣の次は終戦工作内閣になる	・栗林忠道中将率いる小笠原兵団は地下陣地を 構築して持久戦に持ち込み、米軍に5万の戦死 者をもたらそうとするも実際には7千名の戦死 者に留まった。 ・参謀三郎陸軍参謀次長が小磯國昭首相を公然 と批判。陸軍内がバラバラになっている。	栗林忠道中将

年代	時期	主人公	身分	舞台	登場人物	ストーリー	歴史的事項	参照
1945	4月7日	太郎	國務院外交部政務次長	政務次長室	谷津是之(政務次主任) 河辺慎一(大東亜省企画調査局次長)	・谷津是之が太郎に報告 徳山湾沖から出港した戦艦大和が特ノ沖海戦で撃沈した ・河辺慎一から電話 ソ連から日ソ中立条約不延長の通告 これが小磯内閣の総辞職の理由 ・対英米講和斡旋依頼とソ連の参戦の可能性について	・4月1日、アメリカ歩兵師団と海兵師団が沖繩本土上陸開始。戦艦10隻、巡洋艦9隻、駆逐艦23隻で10万発の砲撃を撃ち込んだ。第32軍司令官牛島満中将と参謀長長勇中将は持久戦方針を打ち出すも大本営が拒否。特攻機作戦による大規模反攻に出た。 ・4月5日、ソ連外相のモロトフが佐藤尚武駐ソ大使に日ソ中立条約の不延長を通告した。	菊水作戦 鈴木貫太郎 戦艦大和の最期
1945	5月1日	四郎	関東軍特殊情報課第4班囃託少尉	関東軍総司令部一関東軍官舎	藤岡政男(特殊情報課第4班主任少佐) 三郎 藤岡奈美子 千春	・四郎は藤岡政男にヒットラーの自殺要因を分析報告 ジューコフ將軍麾下のソ連赤軍のベルリン侵入阻止の失敗 親衛隊国家総監ハインリヒ・ヒムラーが赤十字を通じて講和を画策し裏切りを感じた ・内地から来た藤岡政男の姪の相手を頼まれる ・三郎から電話 ドイツ降伏まで10日もかからない ドイツ降伏から3か月後にソ連が対日参戦する 滿洲拓民には知らせられない ・藤岡政男の依頼で姪の千春に会うために関東軍官舎に向かう ・千春はスコッチを飲んでた 兄はガダルカナル島で餓死し 夫は特攻隊機撃墜で撃墜され死んだ 内地では空襲の焦土の中で配給米を受け取るのも苦労している	・沖繩本土上陸する兵力は米軍18万3千人。対抗する帝國陸海軍6万人。沖繩県民は防衛隊を組織、男子中学生生徒は銃血勳隊を組織し第32軍指揮下に入った。女子中学生は特別看護婦となった。 ・トルースベルト大統領が急死し、後任に副大統領のトルーマンが昇格。 ・フランコ総統は対日国交断絶。 ・米ソ両軍がドイツを東西に分割することを決定。 ・社会共和国統領ムッソリーニ二処刑。ガリバルディ旅団のバルチザン部隊に拘束された。 ・4月30日、ヒットラー総統自殺。	ヨーロッパ情勢
1945	5月17日	三郎	関東軍作戦課少佐	天津駅一海光寺一芙蓉ホテル	丸茂義光(天津特務機関中佐) 床波敬司(支那派遣軍北京特務機関大尉) 磯田輝正(八路軍独立混成第4旅少尉)	・三郎は天津特務機関が確保した八路軍俘虜の尋問のため天津にやってくる ・丸茂義光と話す 風船爆弾について 爆撃工作は完全に潰れた その他にバグ工作とダレス工作というものも秘密裏に行われた ・床波敬司が到着し機員修正を尋問する 元第10師団所属伍長 ・徐州作戦の台児荘の戦いで俘虜になる 延安の工農学校で野坂参三に共産主義思想教育をされる ・ソ連と国民革命軍よりも早く満洲に入るため先遣された ・芙蓉ホテルで床波敬司と話す ヤルタ会談協約とソ連の対日参戦について ソ連仲介の講和斡旋は無駄 ・高永義次郎の第139師団長の就任について	・5月7日、ドイツのカール・デーニッツ総統が無条件降伏文書に署名。翌日、トルーマン大統領が日本に降伏を通告したが、鈴木貫太郎は戦争遂行を不承認と表明。 ・5月14日、最高戦争指導会議がソ連の斡旋で戦争終結を図る対ソ交渉方針を決定した。 ・岡村寧次(やむ)司令官指揮の支那派遣軍は老河口を攻略した。 ・毛沢東とスターリンは憤り合っている。 ・満洲では根こそぎ動員でさらに8個師団が誕生する。	風船爆弾 高永義次の処遇
1945	6月8日	太郎	國務院外交部政務次長	政務次長室	瀧吉勝久(上海総領事代理)	・太郎は「今後探るべき戦争指導の基本大綱」を読む 本土決戦との方針 徹底抗戦派と戦争終結受諾派の綱引きが行われていることを読み取る ・瀧吉勝久が太郎を訪ねる 山田乙三總司令官に面会した 廣田弘毅による駐日ソ連大使ヤコフ・マリクへの講和斡旋の打診は完全に黙殺された ・戦争終結受諾派はまだ諦めていない 近衛文麿をモスクワに派遣する予定	・全ドイツ国家秘密警察長官ハインリヒ・ヒムラーがリノーネブルク収容所で自殺。 ・5月24日25日に東京空襲、渋谷区、目黒区、世田谷区、四谷区などが焼かれた。死者1万数千人。 ・沖繩本土上陸戦で7千人の死者。	東京大空襲2 沖繩本土上陸戦
1945	6月26日	三郎	関東軍作戦課少佐	現津駅一黒河駅一黒河省立病院一黒河飯店	樺床正次(作戦課曹長) 染谷恒夫(黒河特務機関曹長) 遠水元彦(関東軍防疫給水部中尉) 落合章介(第1方面軍参謀中佐)	・三郎は樺床正次と黒河駅に向かう 黒河江を渡って帰ってきた遠水元彦に会うため ・染谷恒夫は連れられて省立病院へ 落合章介がすでに来ている ・遠水元彦は31部隊で働いていた モスクワ放逐受容でルーズベルトとの密約が判明 石井四郎中将の命令で黒河江を渡った ・シベリア鉄道アルハラ駅で撃ち殺したソ連兵が東送されていたのを見た 満洲侵攻を確信 帰りに左肩を撃たれた ・大本営陸軍部は肥大化しすぎて戦況に対応できない 瀧島龍二中佐が満洲に転任する	・6月13日、司令官大田実海軍少将指揮の海軍沖繩方面機隊が玉砕。 ・6月19日、第32軍司令官牛島満陸軍中将は総攻撃を命じ、全滅した。23日、長勇参謀長とともに自決。 ・松代大本営の工事は進んでいない。機材不足、労働力不足。	沖繩玉砕
1945	7月中旬	四郎	関東軍特殊情報課第4班囃託少尉	滿洲拓殖公社三江省事務局	柏木太一(滿洲拓殖公社三江省事務局員) 小柳三良(弥栄村村長)	・四郎は弥栄村がある旧北豊鎮に開拓移民の状況確認に来た 滿洲拓殖公社三江省事務局を訪ねる 満が延びし弥栄村は発展していた ・小柳三良と面会 食糧増産を命じたに根こそぎ動員で老人と女子供ばかりが残され農作業ができなくなっている	・マッカーサーがフィリピン全土解放を宣言。第14方面軍はバギオから指揮所をログに移して抗戦している。死傷者は13万4千人。 ・最高戦争指導会議は近衛文麿をモスクワに特使として派遣したが、ソ連は無視した。	
1945	7月中旬	國務院外交部政務次長	國務院外交部政務次長	関東軍第6陸軍拘禁所	間垣徳蔵(奉天特務機関中佐)	・太郎は間垣徳蔵に会いに関東軍第6陸軍拘禁所にやってくる ・大本営は決戦作戦と呼ばれる本土決戦態勢を構想 東を杉山元帥を司令官とする第1総軍 西を畑俊六元帥を司令官とする第2総軍 河辺正三大将を司令官とする航空総軍 ・一撃講和論は国体維持という条件付き講和に持ち込もうとしている ・帝國陸軍には国体維持の佐官がいて 将官はこれを抑えられない 護衛の思想が陸士40期代の理論的支柱 建前で佐官に回っている ・ソ連の対日参戦は複数の情報がある いずれも内閣に無視された ・海軍が米国の新型爆弾開発成功の情報を掴んだ	・7月15日、イタリアが対日宣戦布告。 ・ソ連は近衛文麿とスターリンの会談拒否。 ・ポツダム会談開始。 ・沖繩戦の戦死者9万人、民間人死者10万人、義勇兵死者2万人の合計21万人が犠牲になった。 ・平泉澄(ひらいずみきよし) 東京帝大史学教授の諫(いん)の思想は、国体維持のためには腹を切っても天皇を諷刺することを最善の美徳とする。 ・ベルン駐在武官藤村義朗海軍中佐からの打電を高木惣吉少将が掴むも米内光政海相が和平交渉提案を拒否。 ・リスボン駐在武官松山直樹陸軍大佐から首相秘書官松谷誠大佐への打電も東郷及徳外相が信頼せず。 ・7月16日、米国はニューメキシコ州ロスアラモスで原爆実験に成功。	国体の本義 陸軍の思想変遷
1945	7月28日	四郎	関東軍特殊情報課第4班囃託少尉	関東軍総司令部一洋食屋一普雲峰	藤岡政男(特殊情報課第4班主任少佐) 瀧尾浩巳(満映企画課長) 杜秋秋(中華電影企画部長)	・四郎は藤岡政男と話す 第1総軍第12方面軍東部軍管区第52軍の近衛第3師団は九十九里浜松原に壘場を据えた 第53軍は茅ヶ崎海岸に掩壕(えんごう) 砲台構築 四郎はサイパンと同じ作戦ではないかと疑問を呈す ・洋食屋普雲峰で瀧尾浩巳と出会う 今後の機影予定はない 大塚有章が逃走し中国共産党に合流し甘粕正彦理事長は激怒 ・杜秋秋が同席する スターリンの署名がなかった理由について トルーマンがスターリンの要求を拒否 原爆実験の成功で対日戦勝利にソ連の協力は必要なくなったため	・7月17日からポツダム会談はスターリン、チャーチル、トルーマンの三者で行われた。 ・7月26日、受入前提付き無条件降伏を要求するポツダム宣言発表。受入前提は6。軍国主義の駆逐、連合国による日本領土の占領、日本の主権は本州、北海道、九州、四国、小島嶼に限定。完全無条件降伏。戦争犯罪人の厳重裁判。 ・ポツダム宣言の署名にスターリンの名はなく、参加していない蒋介石があった。スターリンは北海道半分の領有と満洲関東州割譲及び満鉄権益を要求。 ・朝日新聞に帝國政府が声明を黙殺という問題記述。戦争終結が政府の意図と解される。	
1945		三郎	関東軍作戦課少佐	嫩江駐屯地一歩兵第386連隊参謀室一国民学校	樺床正次(作戦課曹長) 桐生弥七(歩兵第386連隊参謀中佐)	・三郎は樺床正次とともに嫩江駐屯地にソ連軍の満洲侵攻に迎撃できる兵力があるか調査に来た ・桐生弥七は大本営への不満を漏らす 対ソ静謐方針と満洲侵攻への準備という矛盾した指示 関東軍は南方に引き抜かれ弱体化した ソ連侵攻に耐えられない ・日本赤十字社の従軍看護婦たちと会話 レイテ島から満洲行きを命じられた ソ連侵攻の可能性について		
1945	8月8日	太郎	國務院外交部政務次長	政務次長室	谷津是之(政務次主任)	・谷津是之が太郎に報告 関東軍が総司令部を滿洲に移転する 帝室と國務院は臨江に移転する ・9日に入った真夜中に谷津是之が再び報告 ソ連が中立条約を破棄し対日参戦	・B-29が広島に原爆を投下した。 ・関東軍は北滿4分の3を放棄し、ソ連の満洲侵攻に対して南滿の進出を中心として持久戦に持ち込み、朝鮮半島と本土を防御する計画。9月未定を目途に準備していた。 ・9日零時過ぎ、ソ連サバイカル方面軍が満洲里を砲撃。守備隊140名戦死、婦女子150名自決。虎頭要塞も第一極東方面軍から砲撃を受けた。東寧や綏芬河でも攻撃を受け、日本人居留民は集団自決。新京にも爆撃。 ・ソ連軍兵力は将兵150万、戦車等5500輛、戦闘機3400機、海軍航空機1200機。 ・関東軍兵力は兵員数68万、戦車200輛、航空機295機。 ・関東軍参謀長善彦三郎中将は日ソ開戦を報じ、退避方向を示す放送をした。	
1945	8月9日	四郎	関東軍特殊情報課第4班囃託少尉	関東軍総司令部	藤岡政男(特殊情報課第4班主任少佐)	・四郎は関東軍司令部でソ連軍の侵攻の情報を集めている ・長崎に原爆が落とされたとの報告 ポツダム宣言を要請するしかないと思ふやうく ・國務院総理の張景惠が新京をオープン・シティにするように関東軍参謀長草野田貞吉大佐に頼むも断られる		
1945	8月11日	三郎	関東軍作戦課少佐	三江省樺川県	樺床正次(作戦課曹長) 桐生弥七(歩兵第386連隊参謀中佐)	・三郎は樺床正次と北滿の状況を確認 避難してきた七虎力村の開拓民と出会う ・桐生弥七たちがやって来る 嫩江の街はザバイカル方面軍に爆撃を受けた 歩兵第386連隊は分散して北安省と三江省と東安省を防御にあたる ・弥七が手塚村にチェルノスに避難した ・桐生弥七から日本赤十字社の看護婦が集団自決したことを知る 桐生弥七が銃剣で突かせた ・三郎たちも東安省に向かう		開拓民たちの奮闘と集団自決

年代	時期	主人公	身分	舞台	登場人物	ストーリー	歴史的事項	参照
1945	8月11日	四郎	関東軍特殊情報課第4班囃託少尉	新東京駅前広場 一関東軍総司令部	瀧尾浩巳(満映企画課長) 藤岡政男(特殊情報課第4班主任少佐) 太郎	・四郎は特殊情報課第4班の命令で新東京駅前広場に来た。各地から押し寄せた居留民でこった返している。駅構内へ入るのを憲兵隊が阻止。 ・瀧尾浩巳に出会す。ソ連軍機械化部隊の到着は一通問後。避難方針について吐き捨てる。新東京に残るとした。 ・藤岡政男と話す。新東京駅前広場の様子と総司令部の移転について。 ・太郎から電話。臨江に向かうのは皇帝及び皇第一家と張泉恵総理など。太郎たち官僚は新東京に残る。 ・関東軍は極秘資料をすべて焼いた。 ・太郎から再び電話。皇帝溥儀一行が帝宮を離れた。臨江一平壤一帯へと移動する予定。	・関東軍総司令部の通化移転と満洲国皇室、國務院の臨江移転が正式決定された。実際に動くのは総司令部と参謀副長、瀧尾浩三参謀だけ。業務は従来どおり新東京で続ける。 ・避難列車は第三次まで用意されたが、それに乗れるのは関東軍高級軍人の家族と國務院官僚の家族、満鉄関係者だけ。方針は作戦課作戦班長の軍地貞吉大佐が決定した。	
1945	8月14日	太郎	國務院外交部政務処長	政務処長室	谷川晴美(秘書) 谷津是之(政務処主任) 河辺慎一(大東亜省企画調査局長)	・谷津是之が太郎に報告。大石橋で叛乱事件が勃発した。予備士官学校候補生が武器庫から重機関銃を持ち出し大連行き列車を停めた。関東軍上級将校に詰め寄る。 ・河辺慎一から電話。ポツダム宣言受諾について。明日正午にラジオ放送される。	・溥儀一行は臨江ではなく大栗子を行宮(あんぐら)とし、張泉恵に新東京に戻るよう命じる。張泉恵は国民政府と連絡をとった。 ・宮城御文庫地下防空壕にて御前会議が開かれ、ポツダム宣言受諾の御聖断が下った。 ・詔書は追水恒久内閣書記官と漢字者の川田瑞穂が書き、蘭明学者安岡正篤(まさひろ)が手を入れる。	大石橋の叛乱事件 ポツダム宣言受諾の御聖断
1945	8月14日	四郎	関東軍特殊情報課第4班囃託少尉	関東軍総司令部	藤岡政男(特殊情報課第4班主任少佐) 江口真行(情報課第1班中尉)	・終戦時の兵力は日本本土に陸海軍合わせて350万弱の兵力と特攻機6千機が残っている。 ・近衛師団作戦命令第904号が口頭で部隊に伝えられた。宮内省の電話線切断。皇宮警察の武装解除。下村弘情報局総裁が宮城守備隊司令部に拘束された。 ・軍務課の井田正孝中佐が東部軍管区司令官田中静吉大將と参謀長高橋成彦少將に合流を求めた。軍務局畑中健二は師団命令を偽造。 ・高橋成彦参謀長は、占拠中の歩兵第2連隊芳賀豊次郎連隊長に師団命令が偽造であることを知らせる。 ・軍務局の椎崎二郎中佐、畑中健二、近衛師団参謀石原貞吉少佐に即刻宮城からの退去命令。畑中健二は放送会館へ向かい隠蔽声明の放送を要求するも失敗。推崎二郎、畑中健二は自殺。	・ポツダム宣言受諾の報があるも藤岡政男は戦争継続派の監視を呼びかける。 ・江口真行から四郎に内地の動きの報告。陸海軍の戦線進退の動きがあった。 ・ポツダム宣言受諾を正式に連合国側に伝達。玉音放送録音機完了。近衛歩兵第2連隊が玉音放送録音機のため宮城占拠。 ・東部軍管区第12方面軍が鎮圧に成功した。 ・阿南惟幾陸相が自刃した。	宮城事件
1945	8月15日	太郎	國務院外交部政務処長	政務処長室	香月信彦(同盟通信記者) 三宅喬二(國務院総務庁秘書処長)	・香月信彦が太郎を訪ねる。玉音放送と一緒に聞く。 ・吉田松隆の幽囚録と民族主義について。黒船来航一種民地化の危機感一吉田松隆の打開策と平田篤胤の国論一尊皇攘夷一明治維新一近代化論一兵營國策論一期群併合一満洲領有一大アジア主義一東亞新秩序。 ・三宅喬二から電話。溥儀が満洲国皇帝を退位し日本に向かうとの報告。	・玉音放送後に宇垣總海軍中将の指揮のもと神風特攻隊の彗星艦上爆撃機1機16名が大分飛行場を飛び立ち、伊予灘島のアメリカ艦船を目標に特攻したが成果はなかった。 ・大西瀧治郎中将が淡路島平島の官舎で割腹自殺。海軍物資の政官。虎王著士夫(こぼよしお)が駆けつける。 ・チャンドラ・ボースが台湾から大連へ飛び立つとしたときに飛行機が爆発炎上し死亡。 ・溥儀一行は奉天経由で日本に向かう飛行場で志位正二少佐とともにソ連軍に拘束された。	玉音放送
1945	8月17日	四郎	関東軍特殊情報課第4班囃託少尉	関東軍総司令部	藤岡政男(特殊情報課第4班主任少佐) 江口真行(情報課第1班中尉)	・ソ連軍の侵攻は衰えない。関東軍総司令部は全部隊に武装解除を含む即時停戦命令を下達する。 ・四郎はポツダム宣言受諾以降満人たちの眼に軽蔑や憎悪を感じた。 ・第125師団参謀長藤田実彦大佐が停戦命令を無視して徹底抗戦を宣言したが敵前逃亡したことにより藤岡政男が怒る。 ・江口真行から禁衛隊と関東軍新守備隊の衝突発生。チャンドラ・ボースが返返って大連に向かった。ソ連軍と組むため。	・ザバイカル方面軍の機械化部隊は白城子を占領し、奉天・新東京に向かっている。 ・第一極東方面軍はハルビンや牡丹江へ、第二極東方面軍はチチハルに向かっている。 ・第五極東方面軍が組織され、占守島や南樺太へ攻撃開始。 ・鈴木貫太郎内閣総辞職。東久邇稔彦王(ひがしのみやまひこ)に大命が降下された。 ・泰彦三郎総参謀長と瀧島龍三参謀がハルビンのソ連領事館で、ワシレフスキー極東軍総司令部に停戦交渉を申し込む。 ・チャンドラ・ボースは東條英機内閣時代にインド独立資金1億円を借款した。	
1945	8月下旬	三郎	関東軍作戦課少佐	杉沢開拓村	樺床正次(作戦課曹長) 立花雄作(杉沢開拓村村長)	・三郎と樺床正次は東安省勃利駐屯所で軍馬を譲り受けた。ソ連軍に蹂躞された東滿の開拓村の惨状を見えた。 ・杉沢開拓村で立花雄作と話す。ソ連軍には譲われないが近隣の満人達が匪賊となって略奪に来た。明朝に村をみなんで捨てて密山に向かう。 ・勃利では関東軍の武装解除後に国軍も国警も略奪に動んだ。 ・略奪するものはなくなったが子供を売るよう迫られる。嫁不足のため。 ・三郎たちは満人2人に見られた。すぐに村を出るよう立花雄作に言われる。 ・東安の大回旅館の立花耕二に伝言を頼まれる。	・各地の開拓村では、ただ同然で土地を奪われた満人が俄みからあちこちが土匪に襲撃されている。 ・満洲国軍では満人将校たちが日本大將校を追い出し、土匪化した満人たちに合流している。	
1945	8月19日	太郎	國務院外交部政務処長	政務処長室	谷津是之(政務処主任) 河辺慎一(大東亜省企画調査局長) 松岡俊雄(満洲航空総務部長) 四郎	・谷津是之が太郎に報告。ソ連極東方面軍の戦間指令へ泰彦三郎と瀧島龍三及び宮川松夫(ふな)ハルビン日本総領事が向かった。ワシレフスキー元帥及びザバイカル方面軍司令官マリノフスキー元帥と交渉する。 ・國務院は4日後に解散する。 ・河辺慎一から電話。占守島で戦線継続中。スターリンは改めてトルマンに連北占領を要求する。親書を送るもトルマンは拒否。 ・ソ連は独ソ戦で兵士1千万人以上、民間人含め2・3千万人を出した。その労働力不足をドイツ兵と日本人で補おうとしている。 ・松岡俊雄から電話。ソ連先遣隊に溥儀一行が連行された。 ・四郎に電話。ソ連の思惑について。関東軍の分析では極東戦線が開かれ溥儀に亜細亜侵略に利用されると見られる。満洲に風塵をつまじり。 ・四郎は藤岡政男に呼ばれた。ソ連軍による関東軍への仕打ちに巻き込まれないように解雇された。 ・田丸不動産で貨物物件を借りる。甘粕正彦が自殺したと聞き満映に向かう。 ・満映企画課で瀧尾浩巳と話す。甘粕正彦の自殺について。	・玉音放送後に宇垣總海軍中将の指揮のもと神風特攻隊の彗星艦上爆撃機1機16名が大分飛行場を飛び立ち、伊予灘島のアメリカ艦船を目標に特攻したが成果はなかった。 ・大西瀧治郎中将が淡路島平島の官舎で割腹自殺。海軍物資の政官。虎王著士夫(こぼよしお)が駆けつける。 ・チャンドラ・ボースが台湾から大連へ飛び立つとしたときに飛行機が爆発炎上し死亡。 ・溥儀一行は奉天経由で日本に向かう飛行場で志位正二少佐とともにソ連軍に拘束された。	チャンドラ・ボースの最期 玉音放送後の特攻 ニユルンベルク裁判
1945	8月20日	四郎	関東軍特殊情報課第4班囃託少尉	関東軍総司令部	藤岡政男(特殊情報課第4班主任少佐) 田丸直也(田丸不動産経営) 瀧尾浩巳(満映制作部企画課長)	・三郎と樺床正次は東安の街にやって来た。五連溝の開拓村で虎頭要塞では第一極東方面軍と戦線継続中との噂を聞いたため。 ・大同旅館に立花耕二を訪ねる。虎頭への鉄路は爆破され道路はソ連軍が封鎖。虎頭要塞は玉砕した。東安にとどまり虎頭や虎林の開拓民を待つ。 ・国境守備隊兵士が置いている武器をもらう。	・甘粕正彦は靑龍カリーで服毒自殺した。	三村亮一 甘粕正彦の自殺
1945	8月30日	三郎	関東軍作戦課少佐	東安一大同旅館	樺床正次(作戦課曹長) 立花耕二(大同旅館経営)	・三郎と樺床正次は東安の街にやって来た。五連溝の開拓村で虎頭要塞では第一極東方面軍と戦線継続中との噂を聞いたため。 ・大同旅館に立花耕二を訪ねる。虎頭への鉄路は爆破され道路はソ連軍が封鎖。虎頭要塞は玉砕した。東安にとどまり虎頭や虎林の開拓民を待つ。 ・国境守備隊兵士が置いている武器をもらう。	・虎頭要塞は玉砕したが、停戦命令を無視したわけではなく国境守備隊司令部に見捨てられた。	虎頭要塞 虎頭要塞玉砕
1945	9月2日	太郎	元國務院外交部政務処長	旧政務処長室	谷川晴美(秘書) 谷津是之(政務処主任) 溝口秋久(通訳) パーベル、ダニレフスキー(大尉) ドミトリー、プロタゾフ(中尉)	・太郎は國務院解散後の残務整理をしている。 ・谷川晴美の身の上について。弟は沖繩で戦死した。 ・谷津是之が押しかけてきた3人のソ連関係者。 ・溝口秋久はソ連軍の通訳。太郎は東日本人民社会主義共産党設立への協力を要請される。 ・太郎はハロフスクの収容所に送られ思想改造教育を受ける。	・ソ連軍が入城し、新東京は長春に、奉天は瀋陽に、大同広場はスターン広場に改称された。 ・日本は連合国軍最高司令官ダグラス・マッカーサー元帥の統治下に入った。9月2日戦艦ミズリ号の艦上で降伏文書調印。日本側代表は重光葵外相と梅津美治郎参謀総長。 ・ソ連軍は国後島に上陸。 ・総務庁長官の武部六藏、次長の古海忠之は中国人民獲得の罪で連行される。	モスクワ放送の勝利宣言
1945	9月9日	浪人		和光路アパート	瀧尾浩巳(満映制作部企画課長) 屋敷双十郎(日本居留民会和光路分会長) 松尾千晶	・四郎は関東軍官舎から引越した。 ・瀧尾浩巳から諏訪牧師の消息を聞く。国警を辞めた。 ・満洲で国民革命軍と八路軍が激突する。満映は東北電映会社に改組され重慶派と延安派に峻別される。 ・屋敷双十郎から長春に押し寄せてくる開拓民に渡す簡単なロシア語を頼まれる。 ・多くの開拓民が押し寄せる。興仁大街で松尾千晶と出会った。多くのソ連兵に強姦されて気が狂っていた。	・満洲中央銀行は営業停止命令を受け、国幣はソ連軍軍票と交換される。軍票が不足し、物価はうなぎのぼりに高騰した。 ・ソ連軍は施設から機械を取り外し、シベリアに送っている。	
1945	9月中旬	三郎	元関東軍作戦課少佐	浜江省	樺床正次(元作戦課曹長)	・三郎と樺床正次は高梁畑で中泉開拓村からの女性を強姦しようとしていたソ連兵6人を射殺。軍馬を放ちソ連軍のジープに乗り換える。通信に成功して下達する。		
1945	9月13日	太郎	抑留者	列車内	谷津是之	・太郎と谷津是之はチターハロフスクへと列車で運ばれている。 ・谷津是之は高熱を発して死んだ。ソ連兵が車窓の外に投げ捨てた。		

年代	時期	主人公	身分	舞台	登場人物	ストーリー	歴史的事項	参照
1945		四郎	浪人	満映本社一和光路アパート	義尾浩巳（満映制作部企画課長） 石毛敏雄（満映総務課主任） 屋敷双十郎（日本居留民会和光路分会長） タチアナ・プレジンスカヤ（ソ連軍参謀本部情報総局中尉）	・四郎は義尾浩巳と満映本社総務課を訪れる 石毛敏雄と話す 毛沢東と蒋介石の会談について スターリンへの警戒感から和平協定を結ぶだろう 大塚有章が満映に戻ってきた ・四郎は中国語で娯楽映画の脚本作りをして欲しいと依頼される ・国民党の先遣隊がやって来た ・ソ連兵たちが和光路にやって来て強盗目的で家に押し入った タチアナ・プレジンスカヤと再会する コルサコフ救済はタチアナだった ・四郎はタチアナに無理やり相手をさせられる ・三郎たちはソープを乗り捨て橋を掘り開拓村の開拓民と一緒に東辺道の山間を歩いている 開拓民たちは海難に向かっていて ・開拓民たちが置き去りにした母子を探しに行く ・10歳の本西照夫は母の頼みで歩けなくなった母と妹を射殺した ・三郎たちは近づいてきた3人の匪賊を射殺し匿名確保した	・アメリカ大使ハーレーの仲介で、毛沢東は重慶で蒋介石と会談。 ・杉山元元帥自殺、東條英機自殺未遂。	
1945	9月30日	三郎	元関東軍作戦課少佐	東辺道の山間	樺床正次（作戦課曹長） 三矢敏三（植原開拓村村長） 本西照夫	・樺床正次は通化の偵察から戻ってきて三郎に報告 通化で国民党組織が発足し八路军が編成司令部を設置している 500名程度のソ連軍は自衛している ・八路军は居留民の赤化のために日本人序列2位の杉本一夫を送り込む ・3人は服を着替えた 本西照夫の祖父の名前と住所がお守りに入っていた 樋口写真館で樋口吉三郎と諏訪牧彦が待っていた ・通化で八路军と国民党軍の衝突は必至の情勢 ・諏訪牧彦に本西照夫を預ける ・松宮九造がやって来た 藤田実彦大佐の蜂起について 松宮旅館の利用を三郎に薦める	・八路军総指揮林彪は関東軍第2航空団第4練精飛行部隊の隊長林弥一郎少佐に空軍創設の協力を依頼した。	八路军と国民党軍
1945	10月	三郎	元関東軍作戦課少佐	通化・農作業小屋→樋口写真館	樺床正次（元作戦課曹長） 本西照夫 樋口吉三郎（樋口写真館） 諏訪牧彦 松宮九造（日本人居留民会通化支部長）	・太田は強制収容所で僅かな食糧をえられバム鉄道の建設のための強制労働をさせられている 6号棟には48名が収容されている ・全員は罪状は資本主義援助罪 ・昨日死んだ男性の遺品の取り分を巡って生田茂生と地位宜也が争っている ・新しく間垣徳蔵が同じ房に入った	・太田は強制収容所で僅かな食糧をえられバム鉄道の建設のための強制労働をさせられている 6号棟には48名が収容されている ・全員は罪状は資本主義援助罪 ・昨日死んだ男性の遺品の取り分を巡って生田茂生と地位宜也が争っている ・新しく間垣徳蔵が同じ房に入った	八路軍と国民党軍
1945	10月中旬	太郎	抑留者	バム鉄道建設予定地→イズベストコーワ第9強制収容所6号棟	勝又有造（元満洲国軍チャムス駐屯地上尉） 生田茂生（元満洲開拓青年義勇軍） 地位宜也（元関東軍一等兵） 溝口秋久（通訳） 間垣徳蔵	・タチアナ・プレジンスカヤは四郎のもとを4回訪れている 誓みを強要された 明日ハバロフスキ行きの電車に乗って通化を去る ・四郎はタチアナが置いていった軍票を燃やす ・香月信彦が四郎を訪ねる ソ連軍の強姦と生産設備持ち去り シベリア抑留について ・日本人抑留は日露戦争敗北の復讐と北北海道占領拒否への憤りによる面がある ・瀧島龍三参謀に関する噂 第7006停戦収容所に朝鮮籍春大木参謀と志位正二関東軍情報参謀ともに入れられた 思想矯正施設でマルクス・レーニン主義を叩き込まれる ・三郎と樺床正次は居酒屋双葉で遼東日本人民解放連盟通化支部の情報収集をしている ・店を出る 後から尾けてきた織部修吉と話す 藤田実彦大佐はいくら待っても蜂起しない朝鮮人民義勇軍・李紅光部隊に感化された ・ソ連兵と中国人殺害の件で脅された松宮旅館をスパイするように依頼される 樺床正次が射殺された	・帝国陸軍は移動先に慰安所を設置したが、ソ連やナチスは野放しにした。監視組織はなく無数の女性が強姦された。 ・ソ連は満鉄や滿洲国工業の生産設備を押収した。スターリンは生産設備の没収なら問題ないとしてドイツからも発電機や溶鉱炉を運び去った。 ・ドイツ兵の抑留者240万人、関東軍や日本人官吏、満鉄関係者64万人。	
1945	10月19日	四郎	浪人	和光路アパート	タチアナ・プレジンスカヤ（ソ連軍参謀本部情報総局中尉） 香月信彦（同盟通信社記者）	・三郎と樺床正次は居酒屋双葉で遼東日本人民解放連盟通化支部の情報収集をしている ・店を出る 後から尾けてきた織部修吉と話す 藤田実彦大佐はいくら待っても蜂起しない朝鮮人民義勇軍・李紅光部隊に感化された ・ソ連兵と中国人殺害の件で脅された松宮旅館をスパイするように依頼される 樺床正次が射殺された	・ソ連とナチスの強姦対策 ソ連による生産設備押収	
1945		三郎	元関東軍作戦課少佐	居酒屋双葉	樺床正次（元作戦課曹長） 織部修吉（遼東日本人解放連盟通化支部設立準備委員会）	・太田と間垣徳蔵は黒パンの受取り係となった ・間垣徳蔵はマガダン第4強制収容所に送られたが脱走騒ぎによりイズベストコーワ強制収容所に移送された ・抑留者の思想改造について 熱心な活動家をアクティブと呼ぶ ・6号棟では中村弓夫たちが北畑頼久を追及する 間垣徳蔵は北畑頼久の有用性から拷問を受けたくない本部に訴えた ・三郎は赤塚利治と武装蜂起について話す ・赤塚利治は日本人大会での藤田実彦大佐の演説を聴評する ・八路军に対抗するために藤田実彦大佐に武装蜂起命令を出させる 林弥一郎陸軍少佐も説得する ・藤田実彦が劉東元司令官の命令で逮捕されたとの報告		
1945	11月初旬	太郎	抑留者	黒パン製造所→イズベストコーワ第9強制収容所6号棟	間垣徳蔵 中村弓夫（元関東軍伍長） 北畑頼久（元関東軍防衛給水部731部隊薬学大尉）	・内田光也が北畑頼久の代わりにウランバートル近郊の強制収容所から補充された ・太田は作戦支援に来たドイツ人捕虜の少佐と話す ハーグ陸軍法規で守られている ・間垣徳蔵は日本人が俘虜と認められないのでハーグ陸軍法規は適用されないと太田に指摘 ・パンを残した勝又有造に対し内田光也は中村弓夫に厳しい自己批判を求める 勝又有造は死んでいた	強制収容所での思想改造	
1945	11月4日	三郎	元関東軍作戦課少佐	松宮旅館	赤塚利治（元第125師団大尉） 樺床正次（元作戦課曹長） 松宮九造（日本人居留民会通化支部長）	・内田光也が北畑頼久の代わりにウランバートル近郊の強制収容所から補充された ・太田は作戦支援に来たドイツ人捕虜の少佐と話す ハーグ陸軍法規で守られている ・間垣徳蔵は日本人が俘虜と認められないのでハーグ陸軍法規は適用されないと太田に指摘 ・パンを残した勝又有造に対し内田光也は中村弓夫に厳しい自己批判を求める 勝又有造は死んでいた	・ソ連の第一極東方面軍が通化から撤収した。 ・藤田実彦大佐が通化に現れて八路军通化司令部に向き、劉東元司令官と会談。	
1945	11月下旬	太郎	抑留者	バム鉄道建設予定地→イズベストコーワ第9強制収容所6号棟	間垣徳蔵 中村弓夫（元関東軍伍長） 内田光也（元満洲開拓青年義勇軍）	・三郎は赤塚利治から呼ばれる 元奉天特務機関の近藤晴雄大尉について 八路军は重慶の国民政府から命令を受け特殊工作を行っていると思いついて 藤田実彦大佐救出について ・三郎は樺床正次と居酒屋双葉で樋口吉三郎と飲む 暫く東辺地区軍政委員会綱領についてもうすぐ通化で八路军と国民党軍の衝突が起こる ・菅江は通化を離れたがどうにもできない すべての通貨が無価値化する ・本庄繁大尉の自害について 極東国際軍事裁判の被告席に座られる間垣徳蔵を助けた	・梅津美治郎参謀総長は8月17日に武装解除と即時停戦の大本陸軍部命令を発した。敵軍の勢力下に入った帝国陸軍人軍属を俘虜と認めない、との詔書発表。	
1945	12月13日	三郎	元関東軍作戦課少佐	松宮旅館→居酒屋双葉	赤塚利治（元第125師団大尉） 樺床正次（元作戦課曹長） 菅江（居酒屋双葉経営） 樋口吉三郎（樋口写真館）	・三郎は赤塚利治から呼ばれる 元奉天特務機関の近藤晴雄大尉について 八路军は重慶の国民政府から命令を受け特殊工作を行っていると思いついて 藤田実彦大佐救出について ・三郎は樺床正次と居酒屋双葉で樋口吉三郎と飲む 暫く東辺地区軍政委員会綱領についてもうすぐ通化で八路军と国民党軍の衝突が起こる ・菅江は通化を離れたがどうにもできない すべての通貨が無価値化する ・本庄繁大尉の自害について 極東国際軍事裁判の被告席に座られる間垣徳蔵を助けた	・通化の日本人口は8千人から1万6千人に増加した。 ・近藤晴雄大尉が持ち込んだ10万円で軍政委員会が発足した。国民党通化支部の幹部孫耕暁が主任委員となり活動する。 ・本庄繁大尉は、11月20日に刺殺された。遺書には満洲専使は関東軍の謀略ではないと認識していたことが記されていた。 ・ニュルンベルク裁判が始まった。	
1945	12月末	太郎	抑留者	管理棟4号室→イズベストコーワ第9強制収容所6号棟	溝口秋久（通訳） ニコライ・パブロフスキー（軍事捕虜抑留管理総局中佐） 中村弓夫（元関東軍伍長） 間垣徳蔵	・太田は管理棟第4号室に案内された 溝口秋久にニコライ・パブロフスキーを紹介される ・ロシアの焼き菓子で山根栄道が自分の妻がソ連兵に強姦殺害されたことを知っているが密告を持ち掛けられる ・間垣徳蔵に買収を見抜かれたくないので嘘をつき黒パン受け取り係を辞めると伝える		
1946	1月上旬	四郎	浪人	和光路アパート	香月信彦（共同通信社記者）	・香月信彦が四郎を訪ねる 今後も共同通信で働く 川島芳子と李香蘭の漢奸容疑について ・八路军と国民党軍の衝突に近い 通化に行きたいが八路軍の乗車制限で近づけない ・天皇の発した「新日本建設に関する詔書」について 人間宣言ではないがそのように報道された 天皇の戦争責任は問われない	・連合国総司令部は、神道指令を発し国家が神道を支援監督することを禁じた。 ・12月16日、近衛文麿服毒自殺。	漢奸容疑と日本軍天皇の戦争責任不問
1946	1月11日	三郎	元関東軍作戦課少佐	松宮旅館	赤塚利治（元第125師団大尉） 樺床正次（元作戦課曹長） 赤塚利治（元第125師団大尉）	・松宮九造が三郎に龍泉ホテルから藤田実彦大佐の救出に成功したことを伝える ・赤塚利治と話す 藤田実彦大佐に武装蜂起命令を出させる 春節の翌日に蜂起することにした	・大栗子の東辺道開発鉱業所に拘束されていた皇后・婉容や王妃・浩が通化に移送され公安局に監禁された。 ・八路军は旧通化省の官吏と遼東日本人解放連盟通化支部の日本人約140名を逮捕した。	
1946		太郎	抑留者	イズベストコーワ第9強制収容所6号棟	中村弓夫（元関東軍伍長） 山根栄道（元嫩江駐屯地中隊長大尉） 間垣徳蔵	・太田はスターリン大元帥万歳を唱えるようになった ・太田が山根栄道に話しかける 妻子の話を振って妻の死を知っていることを確信した 間垣徳蔵が経歴の服差しを向ける		

年代	時期	主人公	身分	舞台	登場人物	ストーリー	歴史的事項	参照
1946	2月1日	三郎	元関東軍作戦課少佐	松宮旅館→樋口写真館	赤塚利治（元第125師団大尉） 松宮九造（日本人居留民会通化支部長） 樋口吉三郎（樋口写真館） 諏訪牧彦	・赤塚利治と蜂起の計画について話す 4千名が参加する 国民革命軍も600名が待機 林弥一郎少佐に航空隊参加の工作中 攻撃目標は6ヶ所 ・三郎は龍泉ホテル攻撃を指揮することになった ・松宮九造から報告 林弥一郎への密書が八路軍に盗まれた ・樋口写真館で樋口吉三郎と蜂起について話す 諏訪牧彦がやって来て作戦を中止すべきと進言する 八路軍のスパイにすべて扱われ事件は仕組まれている 三郎は自身の責任を語り進言を拒否する	・八路軍は逮捕した旧満洲国官吏4人を公開処刑した。	通化事件背景
1946		四郎	浪人	和光路アパート・瀧尾浩巳宅	瀧尾浩巳（満映制作部企画課長）	・四郎は瀧尾浩巳を訪ねる 瀧尾浩巳は満映を辞めて内地に引き上げる 長春市公署の人間が言いがかりをつけて金をせびりに来た ・内地の酷い状況について 瀧尾浩巳は連合国総司令部の民政局が設ける隠匿物資摘発の委員会で働く		内地の状況
1946	2月3日	三郎	元関東軍作戦課少佐	松宮旅館→通化厚生会館	樺床正次（元作戦課曹長） 松宮九造（日本人居留民会通化支部長）	・三郎は松宮九造と話す 国民革命軍と林弥一郎に動きはないが予定通り蜂起決行する ・通化厚生会館に200名が集まり龍泉ホテルを襲撃する 4つの入口から突入するも朝鮮人民義勇軍・李紅北部隊から迎撃され三郎死す		
1946	2月下旬	太郎	抑留者	イズベストコーワ第9強制収容所6号棟	中村弓夫（元関東軍伍長） 山根栄道（元嫩江駐屯地中隊長大尉） レオニド・オショフ（国家保安人民委員部政治委員） 間垣徳蔵 横芝重吉	・第9強制収容所6号棟にレオニド・オショフが入ってきて山根栄道を死刑にする 太郎に「なぜ売った」と問いかける ・中村弓夫が太郎を追及するが間垣徳蔵が自分が売ったと嘘をつく 間垣徳蔵は自ら外に出て射殺される ・太郎は最後に中村弓夫とスターリンを罵倒する ・太郎は自分の過去を振り返り卑怯者に成り下がったことにやっとなげづく 人民裁判で命をいえないように自殺を選んだ		
1946	3月中旬	四郎	浪人	和光路アパート	諏訪牧彦 本西照夫	・諏訪牧彦が四郎を訪ねる 本西照夫を連れてきた ・通化事件と三郎の死を知らせる 遺骸は大頂子山の麓にある 次郎の墓のそばに埋める 藤田実彦の最期について ・諏訪牧彦は中国に残ることにした 本西照夫を祖父のところへ連れ帰って欲しいという三郎からの依頼を伝える	・通化事件に参加した日本人はみんな殺された。重大関与とされた3千名も八路軍と朝鮮人民義勇軍に殺害された。 ・国民党の孫耕暎は蜂起前日に八路軍に逮捕されていた。 ・藤田実彦は獄死し、市街に晒し者にされた	通化事件 藤田実彦の最期
1946	5月上旬	四郎	浪人	広島駅一佐伯郡石内村	本西照夫 本西権治	・四郎は本西照夫を連れて石内村に向かう ・本西権治に本西照夫を送り届けて別れた	・戦争遂行のために天文学的な額の国債を発行したため狂乱物価高騰が起こった。	帰還船

太郎	22
三郎	22
四郎	24